



代田・九条の会 憲法記念日によせて 「お話と歌のつどい」に参加して

5月8日(土)。開会の挨拶に続いて、第1部「沖縄に心をつないで四十数年 - 沖縄・基地・平和、そしてアレン・ネルソン氏」と題して、報道写真家の嬉野京子さんのお話を聞きました。沖縄がまだ日本に復帰する前、1965年、1967年に沖縄に渡ったときの話でした。強く心に残った写真は、1965年・祖国復帰行進団と一緒に行動していた時に起こった米軍のトラックにひき殺されて道に横たわっている女の子と、その子を取り囲んでいる米兵の写真です。沖縄の警察は何もできず、ただ米軍の車の交通整理をしていただけでした。誰も、何もできなかったのです。この写真は、米軍に見つからないように行進団の人の背中越しに撮られ、見つからないよう本土に運ばれ、発表されました。

1967年の伊江島での団結小屋の農民を撮った話も印象に残りました。団結小屋に座り込んだ農民を、米兵が4人がかりで、モノのようにトラックに放り上げる写真を撮ったことで、米軍憲兵大佐の尋問を受けたのです。米軍統治下の沖縄では米軍布令により、“生殺与奪の権利は米軍が有する”として沖縄の人々には何の権利もなかった時代です。質問に「答える義務はない」と返答し、なんとか放免されてから、沖縄人民党や島の人々の援助を受け、伊江島を出て、沖縄本島・そして本土に戻るまで、まさに命がけだったとわかりました。1972年、沖縄は返還されました。が、まだ、日本には基地があり、その75%が沖縄に集中しているという現実を考えると、憲法の理念にもっと日本を近づけたい、日本の最大の安全保障は米軍基地・軍事力ではなくて、九条の力だと強く思います。

休憩をはさんで、第2部は「平和を願って - 歌曲独唱」として陳曦(チェン・シー)さんの素晴らしい歌声を聴かせていただきました。中国・雲南生まれの陳さん、日中友好と平和を願って「初恋」「鳥の歌」「小川が流れる」など沢山歌っていただきました。最後にみんなで「故郷」を合唱しました。

閉会の高岡岑郷さんの挨拶で、日本での世界地図と、ヨーロッパほかでの世界地図の書き方が違うということは、全く知らなかったことで、“目からうろこ”です。参加者は58名でした。(萱野幸子 代田4丁目)



歌う陳曦(チェン・シー)さん
ピアノ伴奏は加藤由紀子さん



子午線(経度0:グリニッジ)を中心にした世界地図

憲法記念日によせて「お話と歌のつどい」 アンケートより (1)

1. 嬉野京子さんのお話について

- ・65年北部行進の際に米軍トラックにひかれた沖縄の少女、それを見下ろす米兵たちと、何も出来ずに立ちすくむ沖縄の人たち。彼女の魂はさとうきび畑の上でまださまよっているのだろう。報道写真に添えられた嬉野さんの話は、見る者聞く者の心に深く突き刺さるものでした。この悲しみは心にしまい、乗り越える力にします。
- ・とてもよかったです。写真・映像を使用したことがリアルでした。これからもこの沖縄のお話（体験）は、機会あるごとにいろいろな会でずっと語って頂きたい。これは過去のこと、何十年も前の一時期のことではありません。現在です。沖縄・日本に米軍基地がある限り。
- ・大変貴重なお話でした。映像も貴重なものばかり。いわゆる“普天間”問題の最中に、時を得た(!)内容でした。他所でもぜひ講演を希望します。
- ・熱意あふれる体験談で、沖縄の今にもつながり思いを深くしました。
- ・40年前ですが、貴重なお話を伺えて知識が増えました。いのちを懸けて写真（カメラ）を守った事に感動しました。
- ・当事者ならではの迫力あるお話でした。もっと聞きたかった。
- ・沖縄に行って色々と感じたいと思いました。どんな話も事実で実感として伝わり、じっとしてられない思いです。どう行動すればいいのでしょうか。根強くガンバリましょう。九条を死守しましょう。
- ・以前は大変御世話になりました。相変わらずお元気そうなお顔を拝見して、何だかほっとしました。自分が関わった記事をレジメに御使いただき光栄に思っています。来場が遅くなってしまいお話のごく一部しかきけなかったのが残念です。
- ・戦後20年以上たった時点で、沖縄はまだあんな状態だったとは…。断片的には「知って」いたけれども、ショックを受けました。現在の沖縄の人たちの「おもい」がこういう歴史の上にあるのだと感じました。もっと色々伺いたかったですね。又機会を作っていただけるといいかなと思います。アレンさんのことについても聞きたかったです。
- ・1967年から沖縄に行って活動された生の体験談を聞いて、自身の危険をくぐりぬけて臨場写真を撮ったこと、昭和47年に日本に返還された後も広大な米軍基地の犠牲が続いていること、などを改めて知った。



沖縄での映像を見ながら話す嬉野京子さん

2. 陳 曦さんの歌について

- ・沖縄の海辺の砂浜と「初恋」の砂山が重なり、澄んだ声が胸に響きました。中国の方はどの方も日本語の言葉がもつ美しさを大事にして唄われ、目頭があつくなります。謝謝。もちろんプッチーニも良かったです。そして祖国の歌は絶品でした。
- ・静かで情熱的の歌を生で聴けて大変感動しました。中でも中国の歌はなんとも云えず、素晴らしいものでした。
- ・「鳥の歌」久しぶりにお聴きしました。(たぶん5年ぶり位)素晴らしい一時を過ごさせて頂きました。各国の曲、選曲もよかったです。
- ・素敵でした。メゾソプラノのアベ・マリア、わたしのお父さん、初恋などめずらしい！中国・韓国と世界で活躍している声楽家は沢山いますが、表現力、そして姿が美しいです。
- ・日本の歌や中国の歌、クラシックの名曲等たくさん披露して下さいありがとうございました。
- ・中国人歌手の歌を聴くことはなかなか無いので、とても良かったです。また聴きたいです。
- ・素晴らしい美声で、日本語、中国語、イタリア語、フランス語と世界の心を伝えていただきました。
- ・まさにプリントにあるように、幅広い音域、美しい音色、気品ある音声と豊かな表現力に魅了された。さすが多くの受賞をされているだけある、と思ったが、聴衆が少なくもったいなかった。
- ・美しい声でした。生の演奏が至近距離！で聞けてよかったです。

3. つどい全体について

- ・九条を柱として、改めて日本国憲法の理念を守り活かしていくことの大切さを胸にきざみました。
- ・代田・九条の会はセンスがいいですね。企画そのもの、会場(教会!)、その後でのカフェ・レストランも!
- ・とてもよいチャンスでした。内容もとても重要で、嬉野さんの話をまた聞きたいものでした。
- ・良かったです、会費が500円では少ない気がしました。
- ・みどりしたたる五月晴れの日
- ・目のさめるような豊かな集いでした。
- ・とても貴重なお話でした。もっともっと大勢の方に聞いていただきたいかったですね。代田以外の人ももっと誘えばよかったかな。
- ・とてもよい企画で流れもスムーズだった。嬉野さんの熱弁で少々時間をオーバーしたようでしたが、討論の時間で調整できた感じだった。

4. 代田・九条の会のとりくみについてのご希望・ご提案

- ・広く浅くで構わないと思いますので、一人でも多くの人々に、この地域でこのような活動をしている人たちがいることを知ってもらうことを続けてほしいと思います。会に参加することも大切ですが、それよりも多くの人々がその気持ちを持って、自分の意思表示と行動を取ることを目指して、これからも取り組んで下さい。
- ・地元で、足元でこのような取り組みをされていて、素晴らしいと思います。
- ・素敵な教会ですね。
- ・まだスタートして数年のようですが、基礎作り・土台作りにご苦労されている様子が分かった。
- ・宣伝のチラシは、全戸分作ってほしいです。こういう会があることを知っているだけでも違うと思います。

5. その他

- ・国民投票法の施行、普天間基地問題をはじめ沖縄駐留米軍問題、私たちを取り巻く環境の変化に目を見開き、耳を澄ませ、一方的なマスコミメディアの報道にふりまわされず、しっかりと自分の意見と考えを大事に日本国憲法を守り活かすことを続けていきましょう。
- ・初めての参加でしたが、勉強させて頂けて良かったです。
- ・会の皆様のご活躍に心より敬意を表します。ありがとうございました。
- ・休憩時間10分では短いと思います。せっかくの新聞も読めず、ろくろくおしゃべりもできない。20~30分あればもっといいです。日本ではどこでも早く早くと先ばかり急ぐ傾向にあります。たまには、ヨーロッパを見習いましょう。人生とは余裕です。
- ・休憩時間にお茶をいただきましたが、その部屋に沖縄の新聞がたくさん置いてありました。もっともっとPRしたほうがよかったのでは、と思った。

いかそう憲法!輝け9条!歩みつづけて10年 5・3憲法集会に参加して

五月晴れの日比谷公会堂で「許すな!憲法改悪・市民連絡会」など8団体で構成する実行委員会による「5・3憲法集会」が開かれました。参加者4500人の半数以上が会場に入りきれず、外に設置されたオーロラビジョンで視聴しました。主催者挨拶では高田 健氏(市民連絡会)が、沖縄の普天間基地撤去にふれ「米軍基地のたらい回しや軍事基地の押し付けは憲法違反の最たるもの」と語りました。スピーチは、最初に田中優子さん(法政大学・江戸文化研究者)が、沖縄県民への連帯を込めて黄色の着物姿で登壇。「憲法を生かすには沖縄から米軍基地を完全撤退させる、日本の再軍備を阻止する、東アジア共同体をつくること」と強調。伊藤 真さん(伊藤塾塾長・弁護士)は、「在日米軍による事件・事故で千人をこえる日本人が亡くなっている。沖縄の基地問題を自分の事として考えよう。日本国憲法は人類の最先端をいつている。命は有限だから…」と。福嶋みずほさん(社会民主党党首)は「沖縄の米軍が戦争の抑止力との声があるが、九条こそ最大の抑止力」と語りました。市田忠義さん(日本共産党書記局長)は「今日の朝日の世論調査では、9条改正反対が67%、9条が平和に役立つと答えた人が7割を占めている。普天間基地の移設先探しではなく、アメリカにもって帰ってもらって、アメリカのどこに置くかはアメリカに決めてもらおうではありませんか」と呼びかけました。

市原悦子さん(俳優)が、「ちいちゃんのかげおくり」(あまんきみこ作)を朗読。空襲で犠牲になった少女を描いた話を情感豊かに読むと、その世界に引き込まれ、すすり泣きが聞こえました。市原さんは「戦争によって幼い命がうばわれたことを忘れないで」と結びました。集会後ジュゴンをかたどった風船、「止めよう憲法改悪」等のプラカードを掲げ、銀座パレードが行なわれました。この輪をもっと広めて行こうと思った1日でした。(小澤 清子 代田5丁目)



戦争・紛争解決と平和構築への手法

講師 伊勢崎賢治氏（東京外国語大学大学院教授）

世田谷区主催・平和都市宣言記念ピースセミナー（2月19日）に参加した感想

★ なぜ戦争・紛争は起きるのか

権力争い、民族対立、汚職腐敗、政治不信、資源争奪などの要因でエスカレート、長期化すると大量虐殺に至る。アフリカ・ルワンダで1994年に民族対立が激化、長期化し一方の民族が他方の民族を「この国、この地球上から抹殺する」という、100日間に80万人以上の大量虐殺が行なわれた。その時少年（中学生位）は教育・訓練され少年兵として、銃などを持ち殺害の中心として行動した。またこの少年兵は他方の民族の少年達多数の両手首を切り落とし武器をもって交戦しないよう残酷な行為まで行なった。この背景には連日ラジオなどでマスコミが紛争をあおりたて、少年兵を英雄扱いにした。（死体の山や手首のない少年達などの生々しい写真を見せて貰いました）

その時国連の対応はどうだったか、アフリカの小国で起きている紛争等を「自国の問題なんだ」と重要視しなかった。そのため悲惨なことになり国際問題に発展し、紛争開始から9年経過してから解決に乗り出した。

★ 平和はくるのか

むずかしい問題と思うが、努力しなければならない。民族対立を「新しく起こさせない、拡大させない、避けさせる」など国連を中心に国際的な努力、援助が大事だと思います。そしてマスコミは争いをあおりたてるような報道を避けることです。戦争・紛争は悲惨です、犠牲者の多くは子供、女性、老人、病人など弱い人です。戦争・紛争は起こしてはならない、大人の責任です。

★ 日本の役割と私の思い

日本は米国に2発の原爆を投下された世界で唯一の被爆国であり、平和を築くために、世界の中心として活躍しなければならない責任ある国であると思う。

民主党・自民党・財界は「日米安保条約を堅持・固執」し、米国の「核抑止力」に頼り、米国にすり寄り、さらに危険なことは「米国の強い要求」もあり、憲法9条を改悪し、米国と一体となり武力を行使（戦争）できる国にしようと狙っています。

私たちは、憲法9条を絶対に『変えさせない、守らなければならない』

世界に誇れる憲法9条を高くかかげ、「戦争のない世界」「核兵器のない世界」に向かって、世論を広げるために努力して行きたいと思います。
(小澤 満吉 代田5丁目)

集 会 等 の 紹 介

6月13日(日) 代田・九条の会 見学会 問い合わせ：小澤 Tel 3487- 3985

陸上自衛隊・広報センター（りっくくランド） 陸上自衛隊朝霞駐屯地内

集合：午前9時 渋谷駅 壁画「明日の神話」前 解散：午後3時ころ

6月15日(火) 18:30～ 大田九条の会講演会

講演 「アフガンに命の水を～復興に武器はいらない～」中村 哲 医師（ペシヤール会）

会場：大田区民ホール・アプリコ大ホール 参加費：前売り1000円 当日1200円

連絡先：大田九条の会 Tel 03- 3736- 1141（中川）

6月19日(土) 13:30～ 九条の会講演会

講演 大江健三郎・奥平康弘・澤地久枝・鶴見俊輔 氏

会場：日比谷公会堂 参加費：前売り1000円 当日1500円

連絡先：九条の会事務局 Tel 3221- 5075 Mail: mail@9jounokai.jp



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++